

# 道東浅海漁業の問題点 (その2)

## ◇ ホツキガイ漁業

十勝、釧路、根室支庁管内のホツキガイ漁業は歴史が古く明治末期から行われ今日に及んでいます。従来、この漁業は手巻き、足踏み巻きの非常に労働力を必要とする漁業で、それに加えて無動力船のためこれらの管内では漁場の利用も限定され十分に資源の活用がされずにいました。この漁業が最近(昭和三八年以降)にいたり全道に先きがけて現在では十勝支庁管内(広尾、大樹)、釧路支庁管内(白糠、釧路、浜中)が動力巻きの近代漁業に移行し計画生産を確立しています。

すくなくとも、この動力巻き許可によつて十勝、釧路の両支庁管内では漁獲量が急増し、より以上の漁業に発展しています。しかし、漁獲量の増大の反面、消流についても充分に対策をたてておかなければ価格の低下をまねくおそれが出て来ます。この漁獲量の伸びは動力船操業(機械巻き)によるもので次の利点と意図があげられます。

- ① 労働力をあまり必要としない楽な操業になる。
- ② 漁場の利用範囲が拡大される。
- ③ 計画生産ができる。
- ④ 未利用漁場の開発が可能。

このように十勝、釧路管内ではホツキガイ資源を充分に活用する一方において資源維持のために地先漁場にあつた増殖対策として移殖、漁業の制限、漁場管理を積極的に行なつています。しかしながら動力船の動力(機械)巻き操業は簡単にとどめ先でも出来るものでなく、その条件としては漁場調査にもとずくところの漁場価値(資源等)の正しい判断と今まで以上の強力な資源管理(さらに採算性についても充分に考慮しなければなりません)でこれから動力巻きに移行しようとする根室管内でもこれらの点に良く注意し、計画をたてていただきたいと思

(増殖部 寺井)

動力巻移行後のホツキガイの漁獲量

上段の数字は数量・Kg  
下段の数字は金額・円

	広 尾	白 糠	釧 路	浜 中
昭 和 37 年	5 2,8 20	2 30,8 00	4 14,4 00	1 43,0 00
	2,8 64,3 92	14,1 49,2 00	2,4 64,2 00	6,9 08,0 00
昭 和 38 年	1 37,4 85	2 73,4 00	7 7,5 00	3 27,0 00
	10,7 47,4 93	21,4 45,0 00	5,3 34,0 00	1 6,3 35,0 00
昭 和 39 年	2 81,0 30	3 50,4 04		7 33,0 00
	26,1 15,1 84	3 2,9 74,5 34		4 2,3 16,0 00